

平成29年度
ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI
(研究成果の社会還元・普及事業)
実施報告書

HT29189 プログラム名 知っているようで知らない「がん」を理解して予防しよう



開催日：平成29年8月23日(水)

実施機関：新潟医療福祉大学

(実施場所) (第2講義棟, 第3体育館)

実施代表者：杉崎 弘周

(所属・職名) (健康スポーツ学科・准教授)

受講生：小学生14名

関連URL:

【実施内容】

・プログラムの留意点・工夫点

- 1) 課題の提示→予想(個人・グループ)→意見交流→講義・実習・体験→予想との比較→考察・まとめというプロセスによって、参加者が主体的に学ぶことができるように進めた。
- 2) グループのメンバーやサポートの大学生との対話や協働の場面を設定し、楽しく課題解決ができるように留意した。
- 3) 測定、クイズラリー、運動などの体験的活動を取り入れ、意欲的に取り組むことができるように工夫した。

・当日のスケジュール

- 10:00-10:30 開講式(挨拶、オリエンテーション、科研費の説明)
10:30-11:00 講義・演習 デジタルコンテンツで学ぼう「がんについて知ろう」
11:00-12:00 実験・実習Ⅰ 体験で学ぼう「適正な体型でがん予防」
12:00-13:00 昼食・休憩
13:00-14:00 実験・実習Ⅱ 体験で学ぼう「食生活でがん予防」
(終了後10分休憩・移動)
14:10-15:30 実験・実習Ⅲ 体験で学ぼう「運動でがん予防」
15:30-15:50 修了式(未来博士号授与式、アンケート記入)

・実施の様子

開講式～デジタルコンテンツで学ぼう「がんについて知ろう」



課題を個人で予想したりグループで話合ったりして、それらを発表しました。



スライドやデジタルコンテンツによって予想と結果を比べてワークシートにまとめました。

体験で学ぼう「適正な体型でがん予防」



がん予防に関係する体型(体組成)を測る前に、自分の体組成を予想しました。



測定値の意味を確認したり、自分の予想と測定結果を比べたりしました。



専門機器を使って体組成(筋肉量, 水分量, 脂肪量, バランスなど)を測りました。



なぜ測定値のような結果になったのか、グループのメンバーや大学生と話し合いました。

昼食・休憩



楽しく昼食をとりながら参加者と大学生が談笑しました。



休憩時には大学生が企画・運営したレクリエーションで参加者全員が交流をしました。

体験で学ぼう「食生活でがん予防」



食生活などががん予防とどのように関わっているのかを学びました。



クイズラリーを取り入れたことで、グループで協力しながら意欲的に学ぶことができました。

体験で学ぼう「運動でがん予防」



がん予防に関係する運動について、心拍数と活動量計で運動量を測りました。



参加者の一人一人が活動量計をつけて、様々な運動に取り組みました。

・事務局との協力体制

■ 広報活動

- 1) 事務局職員と教員が連携して、新潟市内の小学校へ訪問して広報活動を行った。
- 2) 事務局職員と教員が連携して、新潟市内の小学校に案内のチラシを配布した。
- 3) 事務局職員と教員が連携して、近隣のスポーツ少年団に案内のチラシを配布した。

■ 安全配慮

- 1) 事前に安全管理に関する打ち合わせを行い、大学生実施協力者を少人数ごとに配置した。
- 2) 夏場に実施したため実施施設の空調管理に留意した。
- 3) プログラムの途中で全員に飲み物を配付して熱中症予防に努めた。
- 4) 実施に関わる者と参加者の全員が傷害保険に加入した。

■ 今後の発展性、課題

- 1) 参加者とその保護者から継続開催を期待する声が多数寄せられたことから、本プログラムのニーズがあることが確認された。また、小学6年生の参加者から中学生になっても参加できるようにして欲しいという要望があり、対象者を中学生にまで拡大することが今後の検討事項となった。
- 2) 参加者から高い評価を得た背景には、実施教員による充実した内容に加えて、学生協力者が参加者と積極的に関わったことがあげられる。特に、昼食時のレクリエーションは学生自身が企画・運営し、大いに盛り上がった。本事業の成功と発展には大学生の協力者が必要不可欠であることが示唆された。

【実施分担者】

埜 佐敏 健康スポーツ学科・講師
佐藤晶子 健康スポーツ学科・講師
中澤 翔 健康スポーツ学科・助手

【実施協力者】 7 名

【事務担当者】

大竹 宏 研究支援課・課長
阿部つばさ 研究支援課・職員